



愛の精神

はんぶんこの福祉

社会福祉法人さがみ愛育会
〒252-0206

相模原市中央区淵野辺 1-16-5 愛の園ふちのべこども園内 4F 法人本部

TEL 042-707-8881 FAX 042-707-8882

ホームページ <http://www.aiikukai.or.jp> Eメール info@aiikukai.or.jp

(編集発行人 小林祐子)



ふちのべ美邦こども園

コロナ対策に追われ続けた本年度ですが、こども園や保育所にとつての締めくくりは、子どもたち一人ひとりの一年間の育ちを確認しあう大切な年度末です。そのため、「発表会」や「長距離ハイイク」など園全体が取り組む大型イベントが多くなりますが、なかでも代表的なのが「おみせさんゴッコ」です。まずは、それぞれ年齢に応じて商品となる作品づくりから始まり、チビッコスーパーとなる売



認定こども園すこやか

り場の設定、売り手と買い手に分かれた役割分担、お金づくりや商品配列レイアウトなど、子ども同士が力を合わせて事前準備に没頭するのです。そして当日、開店案内の放送が入ると「いらっしゃいませ」「これ、いいよ買ってね」「それ、下さい」なんて威勢のいい掛け声が響きわたるのです。そのなかにおいて、ドキドキしながら買い物に来た1〜2歳児への年長児の対応、その優しい関わり方に感動

します。いつのまにか、小さい子どもの心に寄りそい、必要な処だけを手伝うという見極めが育まれ自然な関わりが出来ていたことです。数年後にはきっとこの幼な子が、同じような配慮をしているという手応えもまた感じるので。こうして知識や技術の獲得だけでなく大切な心の育ちを、きょうだいが少ない少子社会であればこそ、みんなで大切にしていきたいものです



ふちのべ美邦こども園

特集 乳児保育に必要な 教育的養護とは

保育や介護、障がい者支援の質向上を目指して、我が法人オリジナル事業の「法人内研究発表大会」があります。本年度は、コロナ対策のため延期しましたが、毎年各領域から事前申込みがあった発表者の研究報告2〜3件を学びあい、専門性の向上を期しています。とりわけ、同じ法人内であっても、設置年数、目的、種別、規模、地域性や個人的な力量などから多様性とともなう迫力あるインパクトを受けて有効な学びの機会になっていきます。我が法人はかつて、「県の大会」や「全国保育三団体」に加え「保育学会」「子ども家庭福祉学会」に至るまで研究発表や自主シンポジウムを企画し、発題してきました。未熟ながら、試行錯誤的な取り組みや提案、問題提起等に、学者や同業者の批判や助言を受け、少しでも学問的な裏付けを得ることを目標にしたからです。以下は、今回研究発表の予定だった「愛の園ふちのべこども園・分園まほろば」が提案する「乳児保育の指導計画」です。

「再考 乳児保育が目指すもの」 「保育所保育指針解説」3歳未満

児の指導計画」に「緩やかな担当制の中で、特定の保育士等が子どもとゆったりとした関わりをもち、情緒的な絆を深められるよう指導計画を作成する」と示されています。そのため、保育雑誌の「保育の友」が企画する一年間の指導計画作成を委託され、子どもと特定の保育者との関わりを中心に置いて考えてきました。特定の保育者が、子ども一人ひとりの発達や特徴を把握し、継続的に食事、睡眠、おむつ替え等の生活に応答的に関わることで生理的欲求を満たし、徐々に子どもと保育者との間に愛着が形成され、子どもにとって園で過ごす生活が安心できるものへと繋がっていくことを実際の保育の現場でも感じています。そして、安心できる保育者ができるとそこから周囲の友達や特定の保育者以外の保育者にも関心をもち身近な人との関わりに繋がっていきます。また、子ども一人ひとりが自分の思いを仕草や言葉で表出し、保育者は子どものありのままの姿を受けとめ、寄り添った関わりを大切にできました。まだうまく言葉で、自分の思いを伝えられないからこそ、保育者

は子どもの表情や泣き方、仕草を関わりの中で察知し、「いやだったね」「○○したかったね」と言葉に変えて伝えていくことで情緒の安定に繋がっていくと思うのです。子どもにとって保育者が安心できる存在になっていくことが保護者との信頼関係にも繋がっていくことになるので、園



愛の園ふちのべこども園 分園まほろば 園隣の職安に並び日雇いの仕事を求める母親達とその背中におんぶされている赤ちゃんの泣き声を聞き、乳児保育の取組みを決断したからです。当時の園舎は旧陸軍兵舎ですが、その一面に畳を敷き手づくりベットを置いただけの粗末な環境でしたが、その保育者には在園児の母親だっ

た助産婦の援けがあったのです。当時の行政や医師会はもちろん、同業者に至る迄こぞって、「法の規定がない」「生命の保証ができない」「余計な事業をすべきでない」など執拗に反対されましたが、こうして屈することなく手探りの状態ながら、乳児保育を広げていったのです。

主幹保育教諭 和田希美

さて、我が法人の創設基盤となった洲野辺保育園は昭和23年に開園していますが、その五年後にはそれ迄タブーだった乳児保育を開拓しています。法人創設者の松岡キンが毎朝、

この「松岡キン」の開拓的なエネルギーは、戦前師事していた神学者「賀川豊彦」の生き方から学んだものです。その賀川は、関東大震災後の東京下町のセツラー軍団を組織し支援活動を展開しましたが、その基本姿勢は第1に「単なる救援でなく、再起できる活動支援を目指すこと」、第2に「行政指導を受けながらも、それを越えた独自事業の開拓を推進すること」、そして第3は「例え、財源や協力がなくとも確固たる取組みが続けば、必ずや支援の輪が広が

ていくもの」という頑な信念でした。そのため、その志をひき継いだ我が法人は、行政から託された公的制度的の上に、必要な福祉性や専門性に基づく福祉実践を少しでも進化させることを目指してきました。そしてその取り組みの地域化、アウトリーチ化を通して行政依存型に留まらない主体性や創造性が発揮されるステージを確保してきたのです。きっと、それらを合体させた新たな領域こそ、縦割り型の属性を超えた人と人とを繋ぐ地域福祉センターになるのではないのでしょうか。いずれにせよ、我が法人の研究発表大会はこの高度な専門性の深まりと地域性の広がりを中心に据えたものと位置づけています。

続いて、発表予定だった東京江戸川区の「ゆずりは保育園」のレポートです。同園は、全園あげてモンテッソーリ教育を実践していますが、今回は3歳未満児、特に乳児保育の視点から養護教育的な配慮はどうあるべきかを提言しています。

モンテッソーリ教育からみた乳児保育 生まれたばかりの赤ちゃんってどんな存在でしょうか。泣くことしかできず、一人で立つて歩くことも食事をすることもできません。処が、人間の子どもは吸収する心をもって生まれてきます。生まれた家の様子や通っている保育園の環境を丸ごと

吸収することができるといいう力です。そして、自分で自分を成長させるという本能ももっています。生まれた瞬間から、自立に向かって成長していく子どもは、どんな文化にも適応でき、どこの国の人にもなれるのです。吸収する心は、良いことや悪いこと等、全てを吸収します。自由に動き回れるような居心地のよい空間に自然な光、自然素材の衣服や寝具、遊具は成長発達に合ったもの、幼いうちは必要な時に泣いたりすることで排泄後の不快を取り除いてくれたり、おなかがいらいら満たしてくるなど適切な大人の対応があれば、赤ちゃんは本当に幸せです。お世話をする人がたくさん話しかけてあげること、応答的な言葉のキャッチボールが始まり、愛着関係が形成され、安心した環境にいることで探索活動が広がり、成長発達

園で、これを理解して提供する人が保育士であり、モンテッソーリ教育の理解者です。よい環境、よい関わりというのも漠然とした言葉ですが、子ども達をよく観察し、理解しているからこそ、適切な援助ができるのです。但し適切な援助とは、たくさん手をかけてあ



ゆずりは保育園 園舎は旧陸軍兵舎ですが、その一面に畳を敷き手づくりベットを置いただけの粗末な環境でしたが、その保育者には在園児の母親だっ

ゆずりは保育園長 山下美緒

ける事ではありません。一般的に、やってあげる事が愛情の形だと勘違いされる場合がありますが、子どもを信じて見守る姿勢が大切です。「私が一人で、できるように手伝ってね」という象徴的な言葉がモンテッソーリ教育にはあります。生き生きと子ども時代を過ごし、幸せで豊かな人生を創造することができる人生の土台が、間違いなく0〜3歳児の育ち方にあると思います。だからこそ、この時期の保育の質が問われるのです。

以上、モンテッソーリ教育の視点から、乳児保育が意図する教育的な教養など、現場から実践報告してきました。処で、新たに制定された「子ども・子育て支援新制度」は、待機児童解消問題だけでなく「幼児一元化」や「幼児教育・保育の無償化」を実現してきました。処が、残念ながら「保育の質」についてはいささか不十分で曖昧になったような気がします。勿論、「幼保一元化」は、これまで保育所と幼稚園それぞれが厚生省と文部省に所管し、同じ就学前児であっても互いに譲らず、かれこれ

(総合施設長 松岡俊彦)

いつも元気！ みんな元気！！

求められる看護職をめざして

私のお仕事はいろいろな情報を集めつつ、その情報を的確に広めることだと思っています。

健康相談・子どもたちのアニメの話・のびやかな入所者さんとの会話など会話を通して相手の様子や体調、施設内の状況などの情報収集を行い、新しい情報に対応できるように心掛けています。コロナ禍でしゃべることは推奨されませんが、マスクや距離を保ちながらたくさんの人とコミュニケーションをとれるように努めています。

「マスクをするのはコロナにならないようにだって」

「看護師さんにも教えてあげる（手洗いの方法）」

「ケガしたら洗うんだって！！」

子どもとの会話の中にも、いろいろな情報が入っています。

私たちは子どもたちと家庭に最も身近な看護職として、困ったときに「ちょっと聞いてみようかな？」と声をかけてもらえるような看護師になりたいと思っています。
(認定こども園すこやか 看護師 鈴木豊子)

「注目されたい」は人間の本性

理事・心理学者 繁多 進
(白百合女子大学名誉教授)

園でいつも一緒に遊んでいる5歳児二人組を観察しているときでした。A君の方が完全に主導権を握っていて、B君は従うだけという関係なら、いつも二人だけで遊ばせるのは問題があるかもしれないと思って観察していました。その日もレールを作って二人で電車遊びをしていたのですが、私は近くから、周りには子どもたちと話をしながら、横目で一時間ほど観ていましたが、心配する関係ではないと思い、そっと部屋を後にし、廊下に出たとき、A君がとんできて、「ありがとうございました」と言ったのです。びっくりしました。私は目立たぬように見ていましたし、A君も観られているということを意識していて、それが嬉しかったのです。乳幼児は自分の力だけで生きていくことはできません。ですから、だれかに注目されたいと安心して生きていけないのです。「注目されたい」は生きていくための人間の基本的な欲求なのです。年寄りも障がい者も弱者ほど「注目される」ことを必要としています。介護も保育も、福祉というものは「好意ある注目」から始まるのかもしれませんが。

施設長です こんにちは ⑬



「夜間保育所ドリーム」園長の川崎以付史です。ドリームは平成7(1995)年4月に淵野辺保育園(現、愛の園ふちのべこども園)、悠々デイサービスセンターとの複合三施設として開設をし、今年度、開園25周年を迎えました。

四半世紀に亘るドリアムの歴史において大切に守られてきた「小さな保育園で大きなお家」ということを、私はドリアムのモットーであると受けとめています。朝8時から深夜12時まで開所しているドリアムに通う子ども達にとって、ここはまさに大きなお家であり、職員はお母さん、お父さん代わりでもあります。

ちなみに園長である私かというと、若いつもりですが62歳ですので「おじいちゃん」「じいじ」いや、せめて「ヤング・グランパ」と呼ばれたいものです。私がとても気に入っている場所は事務室の流し台

の小窓からの保育室の風景です。それは、お家の台所からの眺めそのものであり、まるで大家族のファミリー・ドキュメンタリーのようなでもあります。ドリームはワンフロアですので、0歳児から5歳児、学童児までが自然に触れ合い、そこでは理想的な異年齢保育が行われています。またロフト、午睡室、乳児コーナー、幼児コーナーと活動内容や年齢別の保育も展開できるように工夫されています。

そして夜、お風呂に入り布団の中で眠りの世界へ入っていく子ども達。その寝顔を見ながら、一日の保育を振り返る時、夜間保育所ドリアムの一員であることに誇りを感じ、これからは子ども達の為に誠心誠意尽くしていこうと思うのです。



福祉セーフティガード支援隊

我が法人、福祉セーフティガード支援隊は、これまで実施していた「さくら応援金」の代わりに緊急事業として、昨夏の「ひとり親家庭への生活支援」に続き、新たに「コロナ禍にあるひとり親家庭への就学支援」事業を行うことに致しました。その詳細は下記の通りです。

- ①目的 本事業は、新型コロナにより失業や収入減に陥った「ひとり親家庭」の高校及び専修学校(中学卒業後)、高等専門学校に進学される方のご家庭を支援するため次の通り「入学祝い金」を通して就学支援を実施します。
- ②支援金 父子家庭、母子家庭を問わず「ひとり親家庭」からの申込みに応じて令和3年3月1日現在、中学三年生一人につき5万円を支給します。(双子などの場合は10万円支給、その後、一人につき5万上乗せ)
- ③申込み方法 法人内、各事業所(18施設)の施設長に直接、お申し出をいただき該当する方は申請書をお配り致しますので、記入の上、期限内に窓口へ申請をして下さい。
- ④確認事項 住所、氏名、年齢、電話番号、学校名(児童)及び職業(保護者の方)を確認の上、申請を受け付けるものとします。
- ⑤財源 本事業に要する経費は、法人内福祉基金運営委員会の承認を得て「はんぶんこ福祉基金」の賛助会員寄付金をもって運用することとします。
- ⑥申し込み期間 令和3年3月15日午前9時～3月31日午後5時
- ⑦本事業問い合わせ先 042-707-8881 法人事務局

理事長日記

丑年です。そしてモウ年度末が近くなりましたが、コロナ感染の危惧はまだまだ続きます。コロナ被害にあわれた方々がお元気になれることを祈り、偏見等で苦しむことのないように十分配慮して参ります。

さて昭和23年開園の「ふちのべ」、昭和44年開園の「すこやか」は地域に愛される園として長く存続してきました。原点の無財産の「ふちのべ」は国所有の土地と建物は全て借用し、戦後相模原復興の新たな息吹を支えてまいりました。「すこやか」もまた県の開発事業での団地建設に委託され県有地に設立しました。両園ともに父母の就労を保証し、子育て家庭を守り、県や市の経済活性化に貢献してきた経緯があります。そのため両園は国から市に、県から市に無償譲渡され、永遠に福祉事業を継続するという条件で無償借用となり、乳児保育や障がい児保育、夜間保育、病児保育、地域子育て支援事業等を開拓し子ども達の笑顔と家庭への支援を使命としてきました。いま、市の財政状況で有償案が検討されていますが、引き続き今後も無償借用を守って頂き、未来に夢を持ちながら、充実して生きる子ども達の園の運営に温かな市の福祉施策を切にお願いいたします。

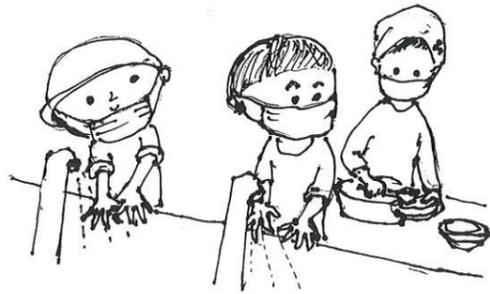
法人オリジナル事業の中止または延期のご報告



コロナ後の人材養成「赤沢自然塾」
"待っているよ"

コロナ感染防止のため、昨年11月21日に計画した『法人デイサービスをつどい』『法人内研究発表大会』及び「役員合同研修会」は無期延期しました。また昨年9月からこの1月に延期していた「しいのき保育園」と「そらのした学童保育クラブ」の内部監査も再延期しました。いずれも、コロナ感染が収まったら、実施する方針ですが、それまでは各園個別的な取り組みに努めてまいります。

（しいのき保育園3歳児保育室）
 あげなくちやならないからネ。
 いったら また もっていったら
 いったら また もっていったら
 いったら また もっていったら



「ねえねえ、なあど」
 散歩から帰ってきて手洗いをしながら配膳準備中の職員を見て
 Aさん「おとなって たいへんだ
 よなあー みんなのしよくしの
 じゅんびをしくちやならない
 じゅんびをしくちやならない
 じゅんびをしくちやならない」

キリストの教えと福祉 その①

この法人の創設者「松岡キン」は、神学者「賀川豊彦」から受洗したキリスト者でした。そこで、我が法人理事の「伊藤忠彦」牧師にお願いし、神の教えと福祉について解説するコーナーを創設しました。伊藤先生は今、和泉短期大学の理事長職を努めています。

— 正典としての聖書 —

キリストの教えは、正典（信仰の基準）である聖書を読むこと、また聞くことで学ぶことにあります。

コロナ禍にあって不安を抱いているわたしたちに、聖書は「苦難をも誇りとしています」という、思いもかけない言葉を耳にし、それに続く「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を…希望はわたしたちを欺くことはありません」と、（ロマ書5：3）書かれていて、慰められ、励まされます。苦しみは忍ぶしかありません。しかし、忍耐は私たちを鍛え、希望を生み出すと聖書は教えているのです。

希望をもって生きられるように励ますことは、福祉の働きの欠かせない務めの一つだと思います。

理事・牧師 伊藤忠彦



賛助会員寄附金及び一般寄附金受領報告

令和2年10月1日～令和3年1月31日
 （順不同・敬称略）

賛助会員寄附金

若林文子 野村リラ 井上民子 神田みゆき
 豊田俊則 池田由佳理 匿名希望 匿名希望
 松岡 潤 松岡 綾 鍛冶あゆみ 佃 清
 佃ゆり子

賛助会員寄附金合計 12件 120,000円—①

一般寄附金

栗山基文 佐藤由華 匿名希望 世戸孝幸
 池田元司 川嶋洋子 井上嘉久 櫻井慶一
 小林祐子 松岡 裕 藤原長俊 繁多 進
 伊東和夫 伊藤忠彦 武石宣子 新倉 勝
 沓掛伸二 長谷川良美 長谷川浩二
 長谷川友紀子 川崎以付史

一般寄附金合計 21件 264,000円—②
 ①+② 384,000円

ご寄付を下さった多くの皆様方に心からの感謝を申し上げます。この寄付金は「はんぶんこ福祉基金運営委員会」にご承認をいただき、法人事業「福祉セーフティガード支援隊」の事業に活用させていただき所存です。ありがとうございました。なかには、25年前に「阪神淡路大震災」の直撃を受けた神戸の保育所に救援物資をお届けしたことがありましたが、当時その主任保母だった、「神田みゆき」先生から今でも時折、優しい寄付金カンパが届きます。厚く御礼申し上げますとともに、少しでも困っている方々のお役に立てるよう、支援活動に努めます。

（報告者 特命担当参事 松岡 潤）

「このおしろはね…」（ふちのべ美邦こども園）



ホットとこいさ

悠々デイサービスセンター 一日のながれ



お一人・お一人の健康状態・御家族との関係性などを理解しつつ、一日を楽しく過ごされるように心掛けています。新型コロナウイルス感染予防のため、日々職員は繰り返し、殺菌、消毒、空気清浄を徹底して行っています。

この一年、三密とかゴーツウキャンペーンとか、余り聞きなれない用語が流れてくるようになった。いずれもコロナ対策だそうじゃが、年若いワシらは眼鏡がくもるから苦手だったマスク一枚が、こんなにも役に立つとは知らなかったよ。何しろ、おしゃべりが飛沫を飛ばし感染を広げるので、マスク装着が決め手になるそうじゃな。こないだ、受験生の鼻だしマスクが失格になっていたが、何しろ吸い込む呼吸の9割以上が鼻孔から入るそうじゃから仕方あるまい。とにかく、使い捨てマスク、布マスク、お洒落マスク、あべのマスク、それにタイガーマスクや忍者マスクなど色々あるよな。ところで、マスクを付けるとみんな優しくなるよな気がしないかい。きっと、孤独感を避けるため、優しい表情や動作を通して、人と人との接点を大切にしたいからじゃないかね。



福祉キーワード

「EDUCATION 2030 プロジェクト」について

OECD（経済協力開発機構）では、世界がより複雑で不安定になり、多様化が進むと予想される2030年に向けて、子どもに求められる資質・能力を検討するとともに、その育成に必要なカリキュラムを研究するプロジェクトを行っています。期間としては2015年から2018年までと、2019年からはフェーズ2として、更なる研究が進んでいます。そして、このような研究結果を活かして教授法、学習評価などに効果的に影響を与えていくことを日本の教育行政でも目指しているところです。

この一大プロジェクトに至るまでの流れとしてはOECD教育スキル局がDeCeCoプロジェクト（1999年にスタート、2003年に終了した国際化、高度情報化が進む社会でのキーコンピテンシーを探るプロジェクト）で示した概念、①相互作用的に道具を用いる ②異質な集団で交流する ③自律的に活動するなどのキーコンピテンシー（資質・能力）の定義を、社会の変化に合わせて再定義する新しいプロジェクトを発足させる必要があるという判断でした。三つの要素としては「何を知っているか（知識）、社会の中でどのように関わっているか（人間性）、知っていることをどうつかうか（スキル）があり、さらに、それらをどう省察し学び続けるかという「メタ学習」で構成されています。

これらは単に国際機関が勝手に研究を進めているという位置づけではなくグローバルコンピテンシというモデルをつくり、そこから日本の教育行政でもコンピテンシーの育成につながるカリキュラムや指導方法、学習評価などについて検討し、具体的に新しい学習指導要領などにも、これらの要素を反映させていくことにもつなげました。特に今回の学習指導要領の改定ではこれらの内容を反映させ、「主体的で対話的で深い学び」という文言に代表されるようなカリキュラムマネジメントも含めた大きな改革にも発展していったのです。

いま、世界最先端の教育は、教科教育的視点の教育から、教科横断的な「探究型学習」へと方向性は大きく舵を切っています。

（文責 常務理事 松岡 裕）



「きらきら大サーカス」
（認定）こども園きらきら

ホッとひといき

～ 掲 示 板 ～

【令和2年度法人本部の予定】

第4回理事会

日時 令和3年3月15日（月）15:00～

施設長会⑥

日時 令和3年3月8日（月）18:00～

【令和3年度法人本部の予定】

苦情解決第三者委員会

日時 令和3年4月30日（金）18:00～

監事監査報告

日時 令和3年5月27日（木）15:00～

第1回理事会

日時 令和3年5月29日（土）13:30～

評議員選任・解任委員会

日時 令和3年6月7日（月）15:00～

第1回定時評議員会

日時 令和3年6月14日（月）15:00～

第2回理事会

日時 令和3年6月14日（月）18:00～

施設長会①

日時 令和3年5月17日（月）18:00～

（各会の議題・内容は省略しました）

編集後記

私、編集担当なのですが、学童保育センターひまわりのある大野北地区ですが、ここ数年、新築の大型マンションが林立し、大変子どもが多い地域です。1年生から6年生までの120名を受け入れていますが、新年度の学童入園児の申し込みを受けける時期はもう大変。連日問い合わせの電話が殺到して、募集人数に対し、3

の応募になり、いつも選考に苦慮しています。そんな状況なのに受け入れている小学校の近くに、またまた今年のごろ入居のマンションを建築中。きっとこの先、学童の需要はさらに増えて、パンク状態になるのは見え見え。何とかありませんかね…。

（編集担当 池田由佳理）

